

# 世界史研究推進委員会

研究テーマ

## 「イスラーム世界の教材化」

「世界史への興味・関心を育む教材及び指導法の研究  
～新学習指導要領への対応を中心に～」経過報告

県立川崎高校 川 口 英 一

本年度は、昨年度までの研究テーマである「イスラーム世界の教材化」に加えて、新たなテーマも設定し、二つのテーマを同時進行で取り組むこととした。「イスラーム世界の教材化」に関しては、未開拓の分野や地域があるとの判断から、継続して研究することとなった。来年度に向けても、早くも「アフガーニー」に関する研究発表が予定されているなど、今後も継続されるべきテーマだと考えている。

新テーマ「世界史への興味・関心を育む教材及び指導法の研究～新学習指導要領への対応を中心に～」は、本委員会の基本的な研究テーマとでも言うべきものである。「明日の授業に役立つ」研究報告、「日常の授業実践に活かすことのできる」研究発表、これが本委員会の研究活動に於ける基本的なスタンスである。換言すれば、教材、及び教材化に向けての研究である。これは、現在の「イスラーム世界：」にしても、以前の「ものを切り口とした世界史の研究と教材化」に同じである。勿論、「教材化」のためには、教材そのものに関する基礎研究が必要であることは言うまでもない。ただ、「教材化」や「教授法」を真つ正面から取りあげ議論すると

いった機会は学校現場ではなかなか持ちにくいのが現状であろう。本年度は「教材化」の姿勢をより明確化し、取り組むこととした。春季研究発表会では、その成果の一端を、プリント教材を中心に堀部先生（大清水）にまとめていただいた。素材は委員が日常の授業で使用しているプリントである。来年度もこのテーマを継続し、さらに深めていければと考えている。

本年度七回開催された研究会で発表された内容は次の通りである。

「世界に広まった伊万里焼」 早川英昭（大船）

「磁器―授業への利用」 岡田 健（新栄）

「東南アジアから二十一世紀を語る」 石橋 功（外語短大付属）

「東南アジア史からの世界史の構築」 石橋 功（外語短大付属）

「プリント教材の工夫と実践～イスラーム世界の成立」 小林克史（秦野南が丘）

「十五年戦争期の日本と外国人～横浜を中心に」 手塚 尚（上矢部）

「イスラームをどう教えるか」 大島弘尚（栄光学園）

「世界史プリント教材の利用方法」 堀部宏人（大清水）

「授業用プリントの工夫～ムハンマドとイスラーム」 川口英一（県立川崎）

尚、本年度、次の学校を会場として使用させていただきました。校名を記して感謝の意を表します。湘南高校（四月二十四日）・県立川崎高校（六月十九日）・新城高校（七月三日）・県立外語短大付属高校（八月二十七日）・大清水高校（十月二日）・新栄高校（十二月十一日）・柏陽高校（二月二十九日）。有り難うございました。